

柘植地域

まちづくりだより

第313号

2025年「農林業センサス」

5年振りに全国で実施

【農林水産省】

令和7年2月1日を基準日として、2025年農林業センサスが全国的に実施されます。此の調査は、国が5年毎に実施する農林業に関する統計調査です。

国内の農林産物の生産状況や就業者の人数、年齢構成などの実態を明らかにするもの。(日本の農林業の生産構造や就業構造、農山村地域に於ける土地資源など農林業・農山村の基本構造の実態とその変化を明らかにする事を目的とする調査です。)

調査の対象は、伊賀市に於いても市内の全ての農林業経営体(農林産物の生産を行う又は委託を受けて農林業作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭羽数が一定規模以上の農林生産活動を行う者)組織の場合は代表者。)となります。

柘植地域に於いては、21の調査区分が設定されており、21人の調査員(区長・区長代理等)にて実施。(伊賀市全体では351調査区)調査期間は令和7年3月12日迄と為っています。



「センサス」・・・古代ローマに「センソール」という職の役人が居り、此の役人は、5年毎にローマ市民の人数などを調査することを仕事としており、センソールが行う調査を「センサス」(Census)と呼んでいたもの。此の事に因み、調査対象の全てを漏れなく調査する「全数調査」を行う事を「センサス」と言う様になりました。

「調査員事務説明会」は、1月14日(火)午後7時からふるさと会館(西柘植地区市民センター)にて開催され、その後「指導員事務説明会」が1月21日(火)午後7時から伊賀市役所に於いて開催されました。

本庁5 F会議室での指導員説明会の模様

総務課行政係が説明を担当

発行

発行日

柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
(柘植地区市民センター内)
〒五一九一四〇二
電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三
令和七(2025)年一月三十一日 (金)



2025年2月～3月の行事 会議日程

- ◆2月3日(月) 市民センター長会議(支所)
- ◆2月5日(水) 教育文化部会(午後7時半)
- ◆2月6日(木) 健康福祉部会(午後8時)
- ◆2月7日(金) 役員会(午後5時半)
- ◆2月7日(金) 人権同和問題地区別懇談会
- ◆2月11日(火祝) 前川解放文化祭(人権センター)
- ◆2月8日(土) 農業研修会(午後3時半)
- ◆2月14日(金) 12区連絡協議会(午後6時)
- ◆2月18日(火) つげふくしネット会議(午後7時半)
- ◆2月21日(金) うつくし松を育成する会実行委員会
- ◆2月28日(金) 広報配布日(令和7年3月分)
- ◆3月1日(土) 7日「金」春の全国火災予防運動
- ◆3月16日(日) 三重県消防大会(県総合文化センター)
- ◆3月3日(月) 地域自治推進会議(支所)
- ◆3月7日(金) 役員会(R6第12回/最終回)
- ◆3月8日(土) 人権コンサート(午前10時)
- ◆3月12日(水) 中学校「卒業式」
- ◆3月14日(金) 12区連絡協議会(新旧区長合同)
- ◆3月14日(金) 小学校「卒業式」
- ◆3月21日(金) 柘植/壬生野/希望ヶ丘保育園卒園式
- ◆3月25日(火) 西柘植保育園「卒園式」
- ◆3月25日(火) 小中学校「修了式」
- ◆3月28日(金) 市民センター長会議(支所)

柘植地域俳句コーナー
あはあはと
雑木芽吹くや
古墳村
桑原智代美

年頭の御挨拶

伊賀市議会 議長 赤堀 久実

柘植地域の皆様には、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃は伊賀市議会に對しまして、ご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年10月、将来に渡っての選挙執行経費の削減、また、投票率の向上を図るため、議会を解散しました。その後、11月に市長と市議会議員の同時選挙を実現し、新たな市政運営がスタートしました。

議会といたしましても、あらゆる主体との協働、共創により、これからの伊賀市の新しいまちづくりを進めていくため、車の両輪となって、伊賀市の更なる発展に向け、共に議論していく所存であります。

さて、本市議会では、これまで、市政の諸課題に柔軟に対処するため、市民の幅広



い年齢層の皆様からの意見を聴き、市政に反映させるため、「議会報告会(地域意見交換会)」の他「中学生議会」や「タウンミーティング」を開催してきましたが、本年は、これらの広聴機能を検証すると共に、広報機能との連携を含め、広報広聴機能の充実に取り組んでまいります。

また、少子化が想定を上回るペースで進行する中、子どもを産み育てやすい環境の整備が求められておりますが、本年4月以降、伊賀地域で出産が可能な医療機関が1施設となる状況のほか、2次救急医療体制や健康増進など、市民の安心できる持続可能な医療環境について、行政だけではなく、議会としても調査等を進めるべく、昨年12月「病院・医療等のあり方特別委員会」を設置し、今後の医療環境について検討してまいります。

本年は、「乙巳きのとみ」の年であります。

市民の皆様が安全で安心して暮らし、より豊かで魅力のある伊賀市となるよう、成長と結実に向け、全力で取り組んでまいりますので、今後とも一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、本年が市民の皆様にとって、幸せで実り多く、素晴らしい年となりますとともに、ますますのご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます、年頭のご挨拶と致します。

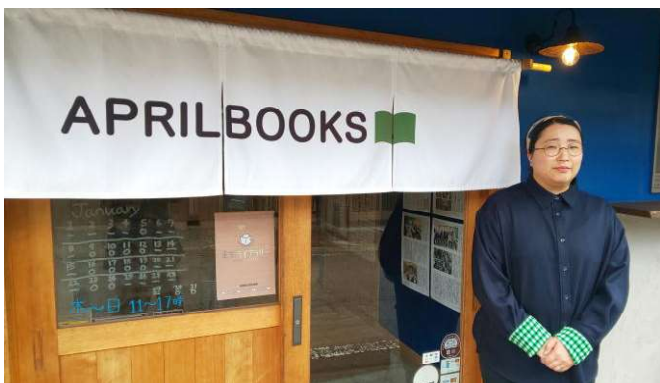
じもと再発見【つげじまん】

地元柘植で活動する人々や、お店を紹介するコーナーです。今回は、柘植駅近くで本屋さんを開かれた芝川さん(図書館司書)を紹介します。

地元の 本屋さん「April Books」

店主 芝川 由希

「エイプリルブックス」は、三重県最初のJRの駅、「柘植駅」から100メートルほどの空き家を利用した書店です。このお店から地域資源や出版文化を発展させたいという想いがあり、また柘植の町の活性化にも繋がれば良いなと思っています。2023年6月にOpenし、様々なフェア、講座を企画、開催しています。



一昨年は、旅する灯台フェア・交通新聞社フェア・自然食通信社フェア・ナノク社フェア・豆本講座を開催しました。読書環境が変わる中で、紙の本に特化した書店を目指し、読み聞か



せやびブリオバトル、阿山小学校にてボランティア活動など本に関することや、司書の資格を活かした活動などにも力を入れています。読者の多様な考え方を広めて行きたいと思っています。最近、出版市場の



減少に伴い、コストのかからない電子書籍の割合が大きくなってきています。Amazonで自分書籍を発行したり、ZINEの発行などのお手伝いや、毎月10日にはZINEについてざっくばらんに話せる場を設けています。宜しければご参加くださいね！
Open日時は木金土日曜日の11〜17時。月の初めに随時Instagramでお知らせします。チェックしてください。

【右の方は、お手伝いに来て居たお母さん】

【注釈】

『ビブリオバトル』は参加者がお勧めの本をプレゼン形式で紹介し参加者全員が投票で「チャンプ本」を決めるゲーム

『ZINE』(ジン)とは個人や小規模のグループが自由に作成する冊子やマガジンを指す



嵯峨御流華道総司所・理事の岩崎美恵甫さんが講師を務める華道教室『和楽』
毎年恒例の「お正月」用生花である「松」飾りと、季節の花々をあしらった生け花の2点を生ける「嵯峨御流」華道教室が開催されました。例年「いがまち展覧会」に、『和楽』としてメンバーの方々が出展されておりましたが、昨年度は衆院選が急遽決まった事に依り、いがまち展が年末にずれ込み「和楽」が求める季節の花々が用意出来ず出展を見送った経緯がありました。

華道教室 『和楽』

センターに掛かる「虹」

雨上がり、センター上空に見事な「虹」が掛かりました。「虹」は幸運を招き、災いを払い、物事の節目や幸せの訪れを意味するものと古来からの言い伝えが有ります。ハワイでは、「虹」は幸運の象徴として



愛されており、「No Rain. No Rainbow (雨が降らねば虹は出ない)」という諺があり、「困難な出来事の後にはきつと良い事がやって来る」と云われています。ハワイはレインボー・ステイト(虹の州)と呼ばれ、降水量が比較的多い雨季の10月〜3月頃は虹が見られる確率が高い為、此の時期に旅行すれば遭遇する機会が多い様です。



虹の下は小林



右はカトレア
上町区長富井
さんが週替わりで飾ってくれます
左は葉牡丹(紅白)
上町会計で民生委員の社本健男さんが毎月用にセンター玄関に飾ってくれます

★編集後記★ 何はさて命大事の春寒し【尾崎紅葉】

寒暖の定まらない早春の候、何はともあれ命は大事だと、春が立ってからの寒さを感じた。(春寒は立春以降、寒さがぶり返す春の季語)

▼尾崎紅葉・¹⁸⁶⁸〜¹⁹⁰³ 明治36年、35歳胃癌で急逝。東京帝国大学国文科中退「金色夜叉」は代表作の一つ。明治18(86)年「硯友社」を設立し「我楽多文庫」発刊「二人比丘尼色懺悔」(にんにびくにいるざんげ)で認められ、「伽羅枕」(きやらまくら)「多情多恨」等発表。幸田露伴と並び称され(紅露時代と呼ばれる)明治の文壇で重きを成した。泉鏡花・田山花袋・徳田秋声、等々優れた門下生を輩出。俳人としても秋声会を興し、正岡子規と並んで「新派」と称されました。

▼令和七年「巳年」今年の「節分」《冬から春の変わり目・立春の前日》は二月二日翌三日が「立春」、二月十八日は「雨水」(うすい)《雨水がぬるみ草木が芽ぐお頃の意》と確実に季節は巡ります。

▼『二十四節気』太陽の黄経に従って一年を春夏秋冬の四つの季節に分け、更に此れを六つに分け二十四等分し其々に季節の名称を付けた中国伝来の暦。▼如月二月は逃げるが如く、弥生三月も間近。又々別れと出会いの時節がやって参りました。(清水)